

2025年度 U12ブロックDC

スポーツマンシップ講習

リスペクト・フェアプレー精神
非認知能力・ライフスキル・社会人基礎力

2025/8 JBAユース育成部会

友情・ほほえみ・フェアプレー

**日本三二連の時からも
提唱してきている**

勝利以上の大切な価値①

スポーツマンシップ

活動プロセスを通じて
子どもたちを感じてもらいたい

スポーツマンシップが大切な理由

- **リスペクト**を意識して行動することで、**他者を大切にすること**を学ぶ
- **フェアプレー精神**を意識して行動することで、**公正に全力を尽くすこと**を学ぶ
- **グッドルーザー（敗者の在り方）**：**負けた時の対応**を学ぶ
- **グッドウイナー（勝者の在り方）**：**勝ったときの対応**を学ぶ

勝利以上の大切な価値を、目標（例えば試合）へのプロセス（過程）から学ぶ

- 試合まで「忍耐」「努力」「節制」「仲間とのチーム構築」「仲間へのリスペクト」
- 試合中 「対戦相手へのリスペクト」「審判へのリスペクト」
「フェアプレー精神を持ちつつ全力を尽くして勝利を目指す」
「役割を考える」「感情コントロール」
- 試合後 「グッドウイナー」「グッドルーザー」の在り方を学ぶ
- 規範を守りつつ、信頼関係を構築する過程を経験することができる

**勝利以上の大切な価値を感じることができる
プロセスから学ぶことができる**



小さな経験を積み重ねる



<ルールを守りながら全力で勝利を目指す>

**リスペクト
(大切に思うこと)
を
子ども達に伝えよう**

リスペクト（Respect）はなぜ大切か？（スポーツマンシップバイブルより）

- リスペクトとは「大切に思う気持ちのこと」
- 子ども達が学ぶことで社会が明るくなる 社会的価値が上がる
- 立場の違う存在・他者に対して、その価値や多様性を認め、大切にすること

リスペクトの内容（スポーツマンシップバイブルより）

① 対戦相手

- 一生懸命戦う相手がいるのでよいゲームになる

② チームメイト

- 一生懸命やってくれる仲間がいるから良いプレーができる
- ゲームに勝利しようという同じ目標に向かって力を合わせる仲間
- ライバルだけど、控え選手・スタートと分かれるけれど・・・

③ ルール

- ズルをして勝とうとすることはよくない
- ルールを尊重しながら勝敗を競い合うことが正しい姿

④ 審判

- 審判を尊重することはゲームを尊重すること
- 審判が公平に判定しようとしてくれている姿勢を尊重するべき

⑤ ゲーム

- ゲームに勝とうと最大限努力する、取り組むことが大切で「勝ったか負けたか」より「どのように戦ったか=全力を尽くしたか」が大切な視点

大人が行動を示してあげよう：リスペクトを伸ばす例

「相手選手がうまくプレーした時は、ちゃんと拍手しようね。みんなでリスペクトしよう」

→ 相手のプレーを称賛する重要性を伝えます。

「審判の人もゲームを公正に進めるためにがんばっているんだよ。感謝の気持ちを忘れずに」

→ 審判へのリスペクトを教える。

「チームメイトがミスしても、声をかけて励まし合おう。みんなで助け合ってこそ強くなるんだよ」

→ チーム内のリスペクトとサポートの重要性を伝える。

「試合中でも、お互いの考えをしっかりと聞いてから行動しようね」

→ コミュニケーションの大切さと尊重を教える。

「相手チームが辛いとき、あなたがどんな言葉をかけるかが大事だよ。優しさを忘れないでね」

→ 相手への思いやりとリスペクトを育てます。

「失敗しても、無理に責めたりしないで。みんな一緒に成長するんだよ」

→ 失敗から学ぶことと、リスペクトに基づくフィードバックを伝える。

「相手のルールを守る姿勢にもリスペクトが必要だよ。正々堂々と戦おうね」

→ ルールや公正さに対するリスペクトを教える。

「君が試合に出ているときも、ベンチの仲間に感謝の気持ちを持ってプレーしよう」

→ チーム全体に対するリスペクトと協力の重要性を伝える。

「プレーの後は必ずお礼を言おうね。ありがとうを伝えることで、みんなが気持ちよくなるんだよ」

→ 礼儀や感謝の気持ちを育てます。

「君がどんな結果になっても、相手を尊重する姿勢を見せることが、もっと素晴らしい選手への道だよ」

→ 勝敗に関係なく、リスペクトを持つことの大切さを教える。

**フェアプレー精神
を
子ども達に伝えよう**

1) フェアプレー精神とは？（スポーツマンシップバイブルより）

- ゲームの中で守られるべき「**ルールに則って公平な条件の下、正々堂々と戦う**」
という考え方や態度のこと（スポーツマンシップバイブルより）
- 「ルールを守りながら全力を尽くして勝利を目指す」というフェアプレー精神は、
スポーツマンシップの中核をなす大切な要素

2) フェアプレー精神はなぜ大切か？（スポーツマンシップバイブルより）

- スポーツは「**よき社会人を作る**」手段にもなる
- 結果が重視されるようになり「ズルをしてでも勝ちを求める」ようになってきている

3) フェアプレーの意義と価値を理解し、広く普及させよう

- リスペクトやフェアプレー精神の理解を深め、多くの大人から子ども達・保護者に伝えたい
- **自然に醸成されるものではない**ので、意図的に指導し日々の練習時から繰り返し実践するように心がけることが大切
- **指導者のみならず保護者も理解する**ことで、家庭での子ども達との接し方も考える

「相手も一生けんめいなんだよ。だからこそ、全力でプレーしよう！」

→ 互いをリスペクトする姿勢を育てます。

「ルールを守ってこそ、ほんとうにカッコいい選手だよ！」

→ ルールの重要性とフェアの価値を伝えます。

「ナイスプレー！でも相手のいいプレーにも拍手できるのはすばらしいよ」

→ スポーツマンシップを言葉で褒める例。

「勝ってもうれしいけど、ズルして勝っても楽しくないよね」

→ フェアプレーの意味を内省させます。

「失敗してもいい。正々堂々とやることがいちばん大事なんだよ」

→ 勝敗よりも過程の大切さを伝える声かけ。

「あいさつがきちんとできる人は、コートの中でも信頼されるよ」

→ 礼儀がプレーにもつながると伝える。

「今日は最後まであきらめずにがんばってて、すごくよかった！」

→ 全力を尽くしたことを具体的に認める。

「相手をバカにしたり、悪口を言うのはカッコ悪いよ。仲間でも相手でも大事にしよう」

→ 言動のフェアさを教える。

「審判の人も一生けんめいなんだ。間違えても怒らずに受け止めよう」

→ 審判へのリスペクトを育てます。

「チーム全員で助け合ってがんばることが、いちばんすてきな勝ち方だよ」

→ 協力・連帯の大切さとフェアプレーの関係を伝える。

勝利以上の大切な価値②

“見えにくい力”

非認知能力

ライフスキル

社会人基礎力

バスケット活動で
“見えにくい力”
は
育むことができる！

ライフスキル：社会人基礎力

前に
踏み出す力

主体性

働きかけ力

実行力

考え抜く
力

課題発見力

計画力

創造力

チームで
働く力Ⅰ

発信力

傾聴力

柔軟性

チームで
働く力Ⅱ

状況
把握力

規律性

ストレス
コントロール力

ライフスキルとバスケットボール

主体性

1) 自分で頑張れること

働きかけ力

2) 仲間と一緒に頑張れること

課題発見力

3) 何をやればいいのか自分で見つけれられること

計画力

4) いつまでに何をやればいいのか計画を立てること

創造力

5) 新しいやり方を見つけられること

発信力

6) 仲間に考えを伝えること

傾聴力

7) 仲間の話を聞くこと

柔軟性

8) 自分と違う意見でも聞くことができること

状況把握力

9) 周囲がどんな雰囲気になっているかを察すること

礼儀

10) 挨拶できること

規律性

11) 時間や約束を守れること

ストレスコントロール力

12) いやなことがあっても感情コントロールができること

**ライフスキルは
“生活していく上で
持っていたい
考え方・スキル”**

“非認知能力”とは？

非認知能力

OECD（経済協力機構）、文部科学省
人生のあらゆる側面を豊かにする普遍的な能力

ライフスキル

WHO

健康で安全な生活
実践的能力

社会人基礎力

経済産業省

職場や地域社会で
活躍するビジネス能力

バスケットからの “見えない贈り物”

- バスケ活動は、ドリブルやシュートといった目に見えるスキルだけでなく、「**非認知能力**」という“**見えない贈り物**”を育む素晴らしい機会です。
- **非認知能力**とは、
 - 目標達成への意欲、**
 - 感情をコントロールする力、**
 - チームと協力する力、**
 - 困難に立ち向かう力、** など数値では測れない**内面的な強さ**のことを指します。
- これらはバスケットを通じて培うことができ、子どもたちの**将来を豊かにする土台**となります。

非認知能力の種類と具体例

自分と向き合う力（自己管理能力）

自制心	自分の感情や行動をコントロールする力
忍耐力	困難な状況でも諦めずに粘り強く努力し続ける力
レジリエンス（回復力）	失敗や挫折から立ち直り、気持ちを切り替えて前に進む力
自己肯定感	ありのままの自分を受け入れ、肯定的に捉える力
メタ認知	自分の環境や考えを客観的に捉え、言語化する力
主体性	自分の意思で行動し、最後までやり遂げようとする力

自分を高める力（意欲・向上心）

意欲・やる気	目標に向かって積極的に取り組む気持ちや集中力
向上心	新しいことに挑戦し、自分を成長させようとする気質
グリット（やり抜く力）	困難な状況でも目標達成のために粘り強く努力し続ける情熱と継続力
好奇心	未知のことや新しいことに対して興味を持ち、探究しようとする姿勢
楽観性	物事をポジティブに捉え、前向きに行動する力

他者と繋がる力（社会性）

協調性	他者の意見を尊重し、協力しながら物事を進める力
コミュニケーション能力	相手の気持ちに共感し、円滑な人間関係を築き、自分の考えを適切に表現する力
問題解決力	自ら問題を発見し、工夫しながら解決策を見つける力
創造性	新しいアイデアを生み出したり、工夫する力

バスケットで育つ非認知能力（例）



① チームの中での
役割理解：
声かけ、応援も
→ 自己効力感
社会性UP



② ミスから学ぶ：
次どうするかに集中
→ 感情コントロール
レジリエンス（回復力）



③ 意見の
ぶつかり合い：
対話で
共感力・対話力を

**非認知能力は
自然に
身につくものか？**

大人の関わり方次第

- **「できたこと」に注目し、具体的に褒める**：シュートが入った時だけでなく、「今、チームメイトをよく見てパスを出せたね！」など、非認知能力につながる行動を具体的に褒めましょう。
- **プロセスを評価する**：結果だけでなく、目標に向かって努力した過程や、困難な状況でも諦めずに取り組んだ姿勢を認め、励ますことが大切です。
- **失敗を学びの機会と捉える**：失敗した時こそ、「どうすれば次うまくいかな？」と一緒に考え、次に活かすチャンスを与えましょう。
- **自主性を尊重する**：子ども自身が考え、判断し、行動する機会を多く作り、選択を尊重することで、主体性が育まれます。

保護者ができること

- 結果より過程（努力・仲間関係）に注目しよう
- 子どもが喜びや悔しさを言葉にする場をつくらう
 - 保護者は受け止めよう
- 子どもの気づきに耳を傾けよう



指導者ができること

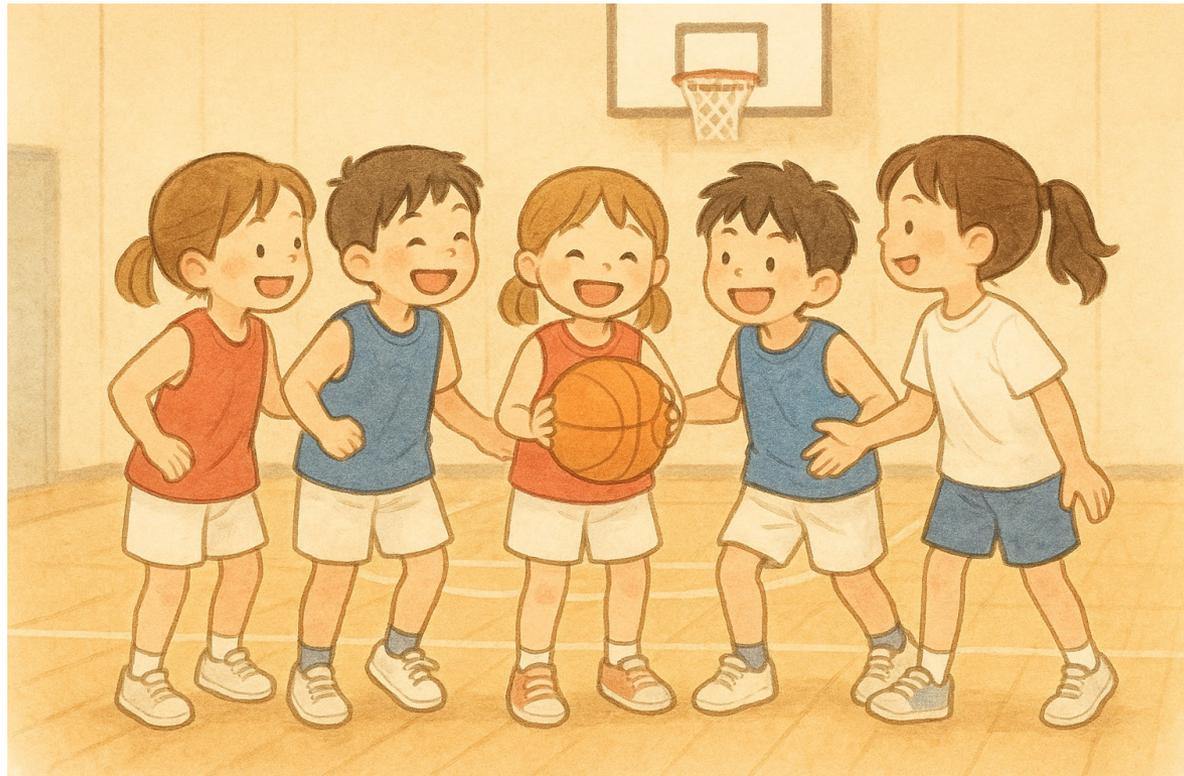
- 「ふりかえり」の時間を意識的に取り入れよう
- 技術だけでなく「心の成長」も見よう
- 子どもの変化に気づき、ことばを届けよう



非認知能力・ライフスキルは バスケット活動で育むことができる

大人の関わり方次第で子どもはもっと伸びる！

今日からコート・家庭でできる一歩を！



非認知能力・社会人基礎力・ライフスキル

能力概念	提唱機関・背景	主な目的・焦点	包含関係	具体例（非認知能力との重なり）
非認知能力	ヘックマン教授、OECD、文部科学省など（経済学・教育学）	人生のあらゆる側面（学力、幸福、社会貢献）を豊かにする普遍的な能力	広範な概念	意欲、協調性、やり抜く力、自己肯定感、コミュニケーション、自制心、忍耐力、創造性など
社会人基礎力	経済産業省（ビジネス・人材育成）	職場や地域社会で活躍し続けるためのビジネス基礎力	非認知能力の一部を包含	主体性、実行力、課題発見力、発信力、傾聴力、ストレスコントロール力など
ライフスキル	WHO（公衆衛生・教育）	健康で安全な生活を送るための実践的な能力	非認知能力の一部を包含	自己認識、共感性、意思決定、問題解決、感情への対処、ストレス対処など